

野菜博士になろう

目 標

- ・野菜や果実のでき方を調べたり、実際に栽培したりすることで、問題解決力を高めるとともに「食」に対する関心を高め、食べ物を大切に作る心をもつ。
- ・農業体験を通して自分たちと自然の恵みやそこで働く人々との関わりを考える。

育てたい力

- 野菜を栽培する過程で起こる様々な問題に気づき、解決しようとする力。
- 野菜・果実の栽培過程を記録にまとめたり、栄養について調べたことをまとめたりして、自分なりの考えをもって表現する力。

主な学習活動（30 時間）

他教科との 関連 (5～12月)

- ・3年生の国語科「すがたをかえる大豆」や食に関する指導と関連して、総合的な学習の時間に「野菜博士になろう」を位置付けた。国語科6時間、食指導2時間、総合的な学習の時間30時間の実施とした。また、学級園に数種類の野菜を植え、図鑑やインターネットなどで育て方を調べたり、成長の様子を観察したりしながら野菜を育てた。

さっぽろっこ 農業体験 (6月)

- ・「野菜博士になろう」の取組の一つとして、栽培の仕方や野菜・果実の特徴についてまとめるためのヒントを学ぶため、さっぽろっこ農業体験事業に参加した。小雨の中、病気にかかっているサクランボの葉をとったり、イチゴのランナーを取り、ビニールポットに植えたりする体験を行った。果樹園の方からイチゴの品種と改良のこと、果実を育てる中で大切にしていることや苦労していることなどの話を聞き、生産者の方々の大変な苦労と農業の大切さを知ることができた。



まとめよう (9～12月)

- ・「野菜博士になろう」の終盤は、自分が選んだ野菜や果実について、図書室の本やインターネットを使って調べ、ポスターにまとめた。農業体験で学んだ野菜・果実の育て方や自分で調べた野菜・果実の特徴・栄養・成長の過程などについて、絵や文を用いて表し、学年で「野菜博士発表会」を行った。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「イチゴを育てるには、種ではなくランナーを植えることが分かった。」「いろいろな野菜を育ててみたい。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

学習を通して野菜・果実への関心が高まり、その後の学習では、それぞれの野菜・果実の特徴や栄養、育て方などについて興味をもって調べた。食べ物や食べることの大切さを考えるよい機会となった。

体験先、関係機関

定山溪ファーム（札幌市）